

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(60)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(60)—

1. 始めに

前報(59)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もヴァイオリン協奏曲です。

RCA 12R-1204

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲 4 番ニ長調

ヴァイオリン協奏曲 5 番イ長調

ヤッシャ・ハイフェッツ (ヴァイオリン)

マルコム・サージェント指揮新ロンドン交響楽団／室内管弦楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

RCA 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

ハイフェッツのヴァイオリンは、艶のある音でハイフェッツらしい華やかな演奏です。カデンツァも華麗なテクニックで盛り上げていきます。

サージェント指揮新ロンドン交響楽団／室内管弦楽団は控えめながら、ソフトな演奏でハイフェッツの華やかな演奏を支えます。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ハイフェッツの華やかな演奏とサージェント指揮新ロンド

ン交響楽団／室内管弦楽団のソフトな演奏が把握できました。

以上